

第 11 回 サレジオ同窓会連合

アジア・オセアニア地域大会

(東ティモール・ディリ 2016 年 10 月 4 日～8 日開催)

報告書



11th Asia-Oceania Congress of Don Bosco Alumni

in Dili, Timor-Leste, 2016

【1】概要

名称： 第 11 回 サレジオ同窓会連合 アジア・オセアニア地域大会
11th Asia-Oceania Congress of Don Bosco Alumni

日程： 2016 年 10 月 4 日～8 日（5 日間）

会場： 東ティモール・ディリ 会議場、Don Bosco Comoro



サレジオ同窓会世界連合
ロゴマーク

目的： サレジオ会学校・施設・ユースセンター等の同窓生を対象とするサレジオ同窓会連合のアジア・オセアニア地域大会。4 年に 1 度開催され、11 回目となる今回は、同窓会のほかサレジオ家族代表も含めて開催。今回のテーマは「よい教育・経済的連帯・社会正義の促進により仲間と共に神に仕える」。内容は各団体の活動報告、交流、今後 4 年間の優先課題の検討等。



左から、武井、西野、河村（連合理事）、鈴木正夫神父（顧問）、林（連合副会長）、鈴木ちひろ、立石（連合事務局長）。羽田空港にて。

参加者： 11 か国、約 260 人（海外から 64 人）

日本からの出席者： 7 人

- ・ 林紹滙（連合副会長、育英学院同窓会会長 6 期生）
- ・ 河村英和（連合理事、育英学院同窓会副会長 1 期生）
- ・ 西野隆司（育英学院同窓会 30 期生、サレジオ高専准教授・国際交流センター長）
- ・ 鈴木ちひろ（育英学院同窓会 31 期生）
- ・ 武井利徳（サレジオ学院同窓会 45 期生、ドン・ボスコ社編集部）
- ・ 鈴木正夫神父（連合顧問、サレジオ小中学校前校長、日向学院同窓会 15 期生）
- ・ 立石光洋（連合事務局長、サレジオ学院同窓会常任幹事 29 期生）

現地アテンド

- ・ 辻村直（育英学院同窓会 29 期生、在東ティモール JICA 専門家）

【2】プログラム

1 日目 10 月 4 日（火）

1-1) 17:30 開会ミサ @ドン・ボスコ・コモロ扶助者聖マリア教会

- ・ 主式：東ティモール司教 ヴィルジリオ・ダ・シルバ司教（サレジオ会）
- ・ 司教は説教で、「私たちは国も文化も宗教も異なるが、私たちの共通語は『ドン・ボスコ』。ドン・ボスコの名の下に一つの家族として集い、語らい、共に働こう」と呼びかけた。



ダ・シルバ司教と鈴木神父



生徒による伝統のマーチで開幕



各国代表と現地の人々・生徒が参列

1-2) 19:00 歓迎式典 @ドン・ボスコ・コモロ技術訓練センター体育館

- ・ オープニングダンス：東ティモールの伝統舞踊
- ・ 歓迎の挨拶。大会委員長・東ティモール連合事務局長 アカシオ・コレイア・グテレス氏
- ・ 東ティモール連合会長 アゴスティニョ・ド・サントス・ゴンサルヴェス氏
- ・ 東ティモール・インドネシア管区長 アポリナリオ・ネット神父
- ・ 世界連合顧問 ラファエル・ジャヤパラン神父
- ・ 世界連合アジア地域担当副会長 ラジェシュ・グプタ氏
- ・ 世界連合会長 ミヒャル・ホルト氏「皆さんと悩みやニーズを分かち合い、理解し合うため、友人になるために集まった。人間関係・ネットワークを築こう。」
- ・ 参加グループの紹介

1-3) 20:00 歓迎夕食会 @ドン・ボスコ・コモロ技術訓練センター体育館

- ・ BGM はサン・ペドロ学院生徒によるオーケストラ演奏。日本のために「スキヤキソング（上を向いて歩こう）」が演奏されたのに答え、日本連合はステージ前で歌い好評を博した。
- ・ 日本連合は揃いのドン・ボスコ・ジャパン T シャツを着用して存在感をアピール。東ティモール同窓会の会長ほか要職の方々・司教・神父に同じ T シャツを贈りつつ記念撮影し、大変喜ばれた。また、各自用意した小さなおみやげを渡しつつ、各国からの参加者と挨拶した。



伝統舞踊で開幕



学校の体育館で食事はケータリング



世界連合アジア地域担当グプタ副会長



挨拶は延々と続く… 巨大な肖像画



東ティモール会長ゴンサルヴェス氏と



「上を向いて歩こう」の演奏に答えて歌う

2日目 10月5日(水)

2-1) 8:00 ミサ @モタエル教会

- ・ 主式：世界連合顧問ラファエル・ジャヤパラン神父



新しい世界連合顧問ジャヤパラン神父

2-2) 9:30 開会式 @コンベンションセンター大会議場

- ・ オープニングセレモニー（ダンスと歌）
- ・ サレジオ会総長 アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父（ビデオメッセージ）「次の世代のために、よりよい社会を築くという今大会のテーマを大変嬉しく思います。すべての人と恵みを公平に分かち合うという正義を実現すれば、よりよい世界は不可能ではありません。仲間・奉仕・正義について真剣に突き詰めるなら、サレジオ家族にとって素晴らしい力を得る機会となると期待しています。私たちサレジオ家族は、同窓生の皆さんに大きな期待を寄せています。今日、世界中から東ティモールに集まったサレジオ同窓生の皆さん、あな

たがかつてサレジオの学校で受け、心に刻まれた最高のものを互いに分かち合ってください。

『よいキリスト者、誠実な社会人になれ』というドン・ボスコの夢を実現し、神を証しする者となってください。同窓生の皆さんは、言葉と生き方を通して世界で働く大きな使命をもっています。サレジオ家族の聖人たち、特に私たちの父であるドン・ボスコに祈ります。皆さんのそばにいつも扶助者聖マリアが主と共に歩んでくださるように、あなたとあなたの家族の願いが聞き入れられるように、皆さんが共に考える未来の計画が実現されますように！」

- ・ **東ティモール連合会長** アゴスティニョ・ド・サントス・ゴンサルヴェス氏「一つのサレジオ家族として、違いを超えて分かち合い、これから共に働く使命を語り合おう。」
- ・ **東ティモール連合顧問** マヌエル・ピント神父「独立してまだ歴史の若い東ティモールにとって今大会の開催は大きなチャレンジ。集まっていただき光栄。」
- ・ **東ティモール・インドネシア管区長** アポリナリオ・ネト神父
- ・ **世界連合アジア地域担当副会長** ラジェシュ・グプタ氏「経済的連帯、サレジオ家族との協働、青年部の活性化など、今後4年間の計画を話し合おう。」
- ・ **世界連合 GEX 青年部担当副会長** アンヘル・グディーニャ氏「同窓生は総長から大きな使命をいただいている。2015年のストレンナ（サレジオ家族年間目標）のとおり、『若者のために、若者と共に』働こう。」
- ・ **世界連合顧問** ラファエル・ジャヤパラン神父「あらゆる違いを超えて、ドン・ボスコの名の下に、その伝統をもち、彼を敬愛する仲間として共に集う私たちは幸せ。」
- ・ **東ティモール司教** ヴィルジリオ・ダ・シルバ司教「今大会開催のチャレンジを受け入れ、実行した東ティモールの同窓生に感謝。国・文化・宗教の違いを超えて、ドン・ボスコの教え子として、一つのサレジオ家族として集う美しい経験である。私たちの経験・知恵を分かち合い、共によい社会を築くために貢献・チャレンジしよう。」
- ・ **世界連合会長** ミヒャル・ホルト氏「東ティモールの同窓生に感謝。多様な国から集まった私たちは、自分たちが受けたタレント・恵み・スキルを、地の塩・世の光となって、社会のために活かす使命がある。世界規模のファンドづくり、ネットワークづくり、これらを運営する事務局の強化など、具体的な戦略を検討したい。開会を宣言する。」



コンベンションセンター



300人収容、スクリーン4面、同時通訳も



フェルナンデス総長のビデオメッセージ

2-3) 10:40 世界連合6か年戦略計画2016-2021の紹介 @同会議場

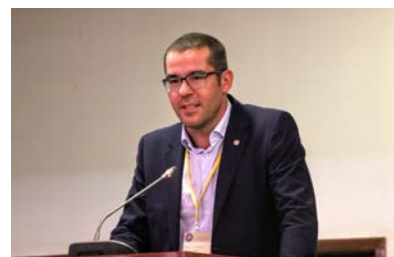
- ・ 世界連合ホルト会長、グプタ副会長、グディーニャ副会長によるプレゼンテーション
- ・ 同窓会は1870年に創設。1908年に世界連合が発足。現在100か国以上、10万人以上の登録メンバー、100万人以上の同窓生を輩出している。30あるサレジオ家族の最大グループ。
- ・ 世界連合評議員では2015年10月から12月にかけて「7つの優先課題」を策定。



伝統舞踊で開幕



世界連合6か年戦略計画の紹介



世界連合ホルト会長

【7つの優先課題】

- ① **持続可能な組織への成長：** 各国レベルの同窓会連合を組織し、持続可能な体制とする。
- ② **養成と教育：** 「同窓生アカデミー」で専門的、全人的、キリスト教的、サレジオ的な人材養成を行う。
- ③ **GEX 同窓会青年部の活性化：** 「若者のために、若者と共に」を大切に。若者のボランティア活動の支援、「School of Leaders」などリーダー人材養成、就業支援など。同窓会組織運営の中心に若者を巻き込むこと。
- ④ **財政強化とファンドレイジング：** 社会貢献の様々なプロジェクトを運営するため、資金集めの仕組みを構築。例えば年間1人1ドルを世界連合のファンドに。「ビジネスプラットフォーム」を構築することで、同窓会の人材名簿をサレジオ家族のあらゆるプロジェクト（職業・スポーツ・文化など）に活用してもらう。SNS でつながるだけでなく、具体的に連携することが必要。
- ⑤ **家庭支援：** 人生は家庭・仕事・信仰のバランスが有用。教皇も総長も「家庭」の大切さを呼びかけている。同窓生は豊かな家庭生活を考え、ファミリーデーの実施なども大切。
- ⑥ **サレジオ家族との連携：** 世界には30のサレジオ家族がある。同窓生は社会経験、専門的スキルを活かし、これらサレジオ家族のマネジメント部隊・実働部隊として貢献する。
- ⑦ **コミュニケーションと発信：** 同窓会内のコミュニケーションを活性化。社会に対する発信も行う。世界連合ウェブサイトも間もなく開設予定。

2-4) 12:30 昼食 @コンベンションセンター中会議室

2-5) 13:30 講演① 環境危機と気候変動 @同大会議場

2-6) 14:30 講演② 参加型経済発展と包括的経済発展 @同大会議場

2-7) 16:00 講演③ 東ティモールの歴史的リーダーの経験 @同大会議場

2-8) 16:30 講演④ 東ティモールでのドン・ボスコ教育法の実践 @同大会議場



環境問題 デカーティンス教授



経済発展 マーサル博士



東ティモールの英雄レレ將軍(同窓生)

2-9) 17:30 各国代表による非公式会合 @同中会議室

- ・ 各国の会長・事務局長・顧問による非公式会合。今大会の決議準備のため代表者による話し合いが行われる予定だったが、自己紹介のみで時間切れとなった。

2-10) 19:30 夕食 @コンベンションセンター外広場

- ・ 東ティモール、韓国、インドの参加メンバーが、個人のビジネスについて紹介。興味があればビジネスの連携について呼びかけがあった。



各国代表による非公式会合



夕食は外広場で



同窓会青年部 GEX !

3-1) 9:00 同窓生の祈りと約束 @コンベンションセンター大会議場

- ・ 世界連合顧問ラファエル・ジャヤパラン神父より説明。全員で唱和。

3-2) 9:10 各国同窓会による活動報告 @同大会議場

- ・ **日本**： 立石事務局長がサレジオ会日本管区の歴史、各学校の紹介、2015年に同窓会日本連合を設立したことや活動内容、今後各同窓会の交流や若者支援に取り組むこと、ドン・ボスコ基金の運営支援等、スライドを使い英語で説明した（プレゼンテーション資料参照）。
- ・ **インド**： 12管区100以上の同窓会。同窓生が運営する学校が多数ある。学生への奨学金、進路相談、健康診断、献血運動、スポーツ大会、移民・貧困の青少年支援など実施。就職相談やビジネスに活用できる「同窓生データベース」も構築中。
- ・ **韓国**： 同窓生3万人。ゴルフコンペ等各種交流イベント、南スーダン支援基金、学校の財政支援、サレジオン・ユース・デーの開催など、サレジオ会と連携して活動。
- ・ **インドネシア**： まだ同窓会連合は未組織。普通学校・職業学校をさらに建設したい。
- ・ **フィリピン**： バスケットボール大会など各種交流イベントで寄付を募る。ストリートチルドレン支援、台風被災地支援など。ホームカミングデー、月例ミサの開催。ビジネスクラブは活発に活動、「朝活」も。同窓会のラジオ番組もある。
- ・ **タイ**： 周辺国の支援として、ラオスで職業学校・孤児院運営、カンボジアでストリートチルドレン支援・孤児院・職業訓練校・児童養育基金など。タイには8同窓会あり、障害児の学校運営、貧しい生徒のための奨学金、ランチ提供、就職相談など。奨学金や退職者のためのチャリティー目的で、ゴルフ、ボーリング、映画祭、音楽祭、クリスマス会、ホームカミングデーなど開催。イベント開催時は食事を持ち寄り、参加費を基金に入れる。ビジネスクラブ（医師・看護師・弁護士の会）もある。
- ・ **マカオ**：
- ・ **オーストラリア**：
- ・ **東ティモール**： サレジオ会学校は1946年創立、同窓会は1987年設立。9校、2大学、65,000人の同窓生。月例会合のほか、1/31 ドン・ボスコの記念日、5/24 扶助者聖マリアの記念日に集まる。各地域大会と全国大会を開催。家族連れで参加できる。リーダーシップスクールや聖地巡礼（イタリア・ポルトガル）など各種イベントを開催。病院・孤児院・刑務所訪問。



日本 立石事務局長が発表



インド会長



韓国会長



フィリピン顧問



タイ事務局長



東ティモール

3-3) 11:30 大会テーマに関するプレゼンテーション @同大会議場

① 若者とのコミュニケーション

世界連合 GEX 青年部担当副会長アンヘル・グディーニャ氏の講演。コミュニケーションは非言語的表現も重要。SNS は便利な道具だが、誤解も生じやすいことを念頭に活用すること。Gmail、Google ドライブ、Facebook、Skype、WhatsApp などの特徴を紹介。サレジアンは Face to Face のコミュニケーションを大切にすることを強調。

② 経済連帯と社会正義

世界連合アジア地域担当副会長ラジェシュ・グプタ氏の講演。アジアには多数の第三世界、政治的・経済的困難を抱える国がある。同窓生は社会で大きな影響力を持つことができる。ビジネスだけが目的でなく、「よい社会人」として教育された私たちの使命を考え、ビジネスプラットフォームを専門的連携に役立てたい。

③ 同窓生の霊性（生き方）

世界連合顧問ラファエル・ジャヤパラン神父の講演。ドン・ボスコは私たち同窓生と共に歩いている。ドン・ボスコは貧しい人びとと共に歩いた。ドン・ボスコは私たちの助けを必要としている。「Live Don Bosco, Give Don Bosco」同窓生は家庭生活・職業生活をしながら、ドン・ボスコのように生きることができる。同窓生が連帯すれば大きな一つの家庭を築くことができる。社会により教育を与え、聖なる生活を生み出すことができる。

3-4) 12:30 昼食 @コンベンションセンター中会議室

- ・ 休憩時間に、日本連合は「ドン・ボスコ 200 周年クリアファイル」（300 枚、ドン・ボスコ社提供）を全参加者に配布。実用的で嬉しいと好評だった。

3-5) 13:30 7つの優先課題をグループ討議 @同大会議場

- ・ 全参加者が 7つのグループに振り分けられ、7つの優先課題のテーマに分かれてグループ討議。各テーマについて具体的な目標を 3つに絞る。
- ・ 言葉の問題（現地テトウン語と英語の通訳に時間を取られる）もあり限られた時間だったが、今大会の決議の添付資料として、この内容が盛り込まれることとなった。



グループ討議



グループ討議の発表



一応、会議は終了

3-6) 17:30 閉会ミサ @ドン・ボスコ・コモロ扶助者聖マリア教会

- ・ 主式：東ティモール司教 ヴィルジリオ・ダ・シルバ司教（サレジオ会）
- ・ 司教の説教： ドン・ボスコの名の下に一つの家族になろうと初日のミサで話した。互いの違いを超えて、よい出会い、話し合い、分かち合いができたと思う。昨夜の懇親会で、オーケストラの演奏に日本の人たちが答えて一緒に歌ってくれた。あのように呼びかけに対して自然に相手の思いを受け止めることが、愛の証しなのだと印象に残った。

3-7) 19:30 夕食会・おみやげ交換会 @ドン・ボスコ・コモロ技術訓練センター体育館

- ・ 食事をしつつ、おみやげを交換。日本連合は日本酒（4 本、コップ 100 個）を振る舞い、大いに喜ばれた。物を渡すより、酒を注ぎながら感謝の言葉を伝えられるのがよい。

- ・ バンド演奏に合わせて会場はダンスパーティーとなり、国を超えた「ドン・ボスコの同窓会」の愉快的交わりを楽しんだ。韓国やインド代表は歌を披露。
- ・ 日本連合は、武井氏が日本の若者文化を紹介するということで、ももいろクローバーZの曲「ココ☆ナツ」（作曲は大阪星光学院同窓生のヒャダイン：本名前山田健一氏）でダンスを披露。あらかじめ応援を依頼していた東ティモールの若者たちをはじめ、会場の多くの人が一緒に踊り、大いに盛り上がった。



日本酒で「飲コミュニケーション」



伝統織物タイスが贈られる



ももクロのダンスで会場が湧き立つ

4 日目 10 月 7 日（金）

4-1) 8:00 東ティモールの歴史的施設見学・観光

- ・ **ヨハネ・パウロ 2 世記念碑：** 1989 年に教皇ヨハネ・パウロ 2 世が訪問し、10 万人規模のミサを行ったことなどを記念して建てられたもの。
- ・ **クリスタル学院：** 東ティモール連合会長アゴスティニョ・ド・サントス・ゴンサルヴェス氏が創立したサレジオ学校の一つ。雨と時間の制約のため車上からの見学だったが、生徒たちが楽団と歓声で歓迎してくれた。
- ・ **Chega! Exhibition（刑務所跡）：** 東ティモールは 1975 年ポルトガル領から独立の話し合いが進められていたが、インドネシアによる侵攻を受け、以後 2002 年に独立するまで全人口の 4 分の 1 から 3 分の 1 の人々がインドネシア軍に殺害されたといわれる。ここでは「政治犯」とされた人々の刑務所での惨状や人権侵害の真相をパネル展示等で見ることができる。
- ・ **サンタクルス墓地：** 墓地で追悼集会を行っていた市民に対し、インドネシア軍が無差別に発砲し、500 人が死亡または失踪したとされる。この事件を外国人ジャーナリストが撮影したビデオテープを国外に送ることに成功したことで、国際社会に東ティモールの惨状が広く知られることとなった。
- ・ **ティモールレジスタンス博物館：** 東ティモールの歴史、サンタクルス事件の映像、独立までの足跡などが展示されている。
- ・ **クリストレイ公園：** 岬の山頂に世界で 2 番目に高い（27m）キリスト像がそびえる。キリスト像までの階段の道には、キリストの受難を思い起こす信心行「十字架の道行」がある。海岸は美しい白砂のビーチ。



ヨハネ・パウロ 2 世記念像



クリスタル学院の生徒たち



クリストレイ公園のビーチ

4-2) 13:00 昼食・自由時間 @ドン・ボスコ・コモロ技術訓練センター体育館

- ・ 昼食後は自由時間で買物・観光の予定。前日から繰り越された決議まとめのため、各国代表（会長・事務局長・顧問）がミーティングを行うこととなったが、連絡ミスによりメンバーが集合せず、半日無為な時間を過ごすことになった。

4-3) 16:00 代表者ミーティング @サレジオ会管区長館

- ・ 各国代表（会長・事務局長・顧問）が集まり、今大会の決議案を検討。まとめ方について、世界連合役員とアジア側の考えが一致せず混乱。最終的に、今大会のテーマを掲げ、具体的には7つの優先課題について各国で今後目標を策定・評価することとした。

4-4) 17:30 感謝ミサ @ドン・ボスコ・コモロ扶助者聖マリア教会

- ・ 聖書朗読と答唱詩編の先唱を立石事務局長が拝命。共同祈願は各国代表者が自国語で唱え、日本からは武井氏が登壇。

4-5) 18:30 決議発表・閉会 @ドン・ボスコ・コモロ扶助者聖マリア教会

- ・ 大会事務局長より今大会の決議までのプロセスについて説明。
- ・ 東ティモール連合ゴンサルヴェス会長より謝辞。「世界中から集ってくださった皆さんの前でこのようにおもてなしできることを光栄に思う。私のような者が、ドン・ボスコのおかげで人間になれた。今大会で、互いの違いを超えてよい分かち合いと話し合いができ、決議をまとめることができた。この決議を受けて、各国で今後の目標を策定し、2年後に評価をし、必要な見直しをしながら、着実に前進していこう。」
- ・ 世界連合ホルト会長より謝辞と決議の発表。各国代表（会長・事務局長・顧問）が決議書に署名をして閉会。



各国代表が決議書に署名



決議書を掲げる世界連合ホルト会長



閉会 各国代表

【3】第11回 サレジオ同窓会連合アジア・オセアニア地域大会 決議（仮訳）

（東ティモール・ディリ 2016年10月4日～8日開催）

私たちアジア・オセアニア地域のドン・ボスコの同窓生は、私たちと次世代の人々にとってよりよい社会を築き、社会正義に参与し、世界連合の戦略計画における7つの優先課題を考慮しつつ、世界に働きかける。

私たちは、各国連合が7つの優先課題の具体的指針と期限を含む戦略計画を2017年1月31日まで策定するよう決意する。

各国連合は、世界連合が提案する書式に基づき、1年以内にデータベース作成の準備を整え、各国同窓生の連携構築に努めるよう決意する。

各国連合は、7つの優先課題を検討するにあたり、本決議の添付資料にある今大会のグループ討議の内容を参考にすることができる。

アジア・オセアニア地域の各国連合会長および顧問は、当地域担当評議員と共に、2018年に本決議の中間評価を行い、当地域に適合するものに見直しを行う。

2016年10月7日

＜決議書 添付資料：7つの優先課題についてグループ討議の内容＞

①持続可能な組織への成長：

- ・各国連合、地域同窓会組織、事務局の体制を強化する
- ・文書や報告書のシステム化
- ・年間目標の策定

②養成と教育：

- ・職業・就職支援のネットワーク化
- ・リーダーシップ、経営、マーケティング、進行管理、信仰、家族計画等の養成
- ・助けを必要とする人々へのボランティア整備

③GEX 同窓会青年部の活性化：

- ・学校・教会におけるリーダー養成、就職支援
- ・同窓会青年部の組織化
- ・会報・雑誌の発行

④財政強化とファンドレイジング：

- ・年会費の徴収
- ・経営専門家の紹介
- ・企業協賛金や寄付金の促進

⑤家庭支援：

- ・家族養成（各地域）
- ・家族集会（各地域）
- ・家族会議（アジア地域レベル）

⑥サレジオ家族：

- ・挑戦：教育、経済、物質主義
- ・戦略：対話、司牧、一致
- ・参加：養成、誠実、倫理的価値

⑦コミュニケーションと発信：

- ・アジア・オセアニア地域の事務局創設
- ・SNS 等多様なコミュニケーションチャンネルの開設
- ・社会・経済・政治等の分野で役立つ人材のネットワークを構築

【４】日本連合の参加者のふり返り

【つながり・広がり】

- ・ 今回は同窓生が主体となりサレジオ家族の大会をオーガナイズしていたため、間口の広い集いだった。様々な国から幅広い年齢層の参加者がおり、組織の大きさを実感した。
- ・ 「サレジオ家族」と聞くと信者の集まりというイメージだったが、実際参加して、宗教・国・言語に関係なく、同窓生なら皆ファミリーなのだと実感した。
- ・ インドだけでも 100 校近くのサレジオ会学校があるなど、アジアにドン・ボスコの教育が広がっていることを知り、「ドン・ボスコ」という言葉の偉大さを改めて実感した。
- ・ 東ティモールのおもてなしを受け感じたこと、スロイテル神父が率いた同窓生の残した功績が今に繋がっていることに感動した。
- ・ 各国参加者とは夕食時のコミュニケーションで日本を大いにアピールし、相手を喜ばせる等、楽しい時間を過ごせた。

【同窓生がつながり、働くメリット】

- ・ 現地でのサレジオ同窓生の存在感に改めて圧倒された。サレジオ会の事業所のみならず活躍の場があることは良い事例である。（例えば、同窓生が作った学校）
- ・ 現地在住 JICA 専門家の辻村さんには、講演では聞けなかった東ティモールの環境問題等現状を聞き、この国の発展に寄与できる人材育成の必要性を強く感じた。

【サレジオ同窓生の精神】

- ・ 「ドン・ボスコ」という共通言語が根本にあり、一つの共同体としての力強さが感じられた。
- ・ 事前にドン・ボスコについて本を読み学んでいたおかげで、ドン・ボスコの生き方に共感をもって参加できた。他国からの参加者に、「自分はクリスチャンではないがドン・ボスコが好きだ」と伝えたら、相手との距離がとても近くなり仲良くなれた。
- ・ 在学中は信者でないとドン・ボスコについて知る機会がなかったが、この機会に知ることができ、サレジオの同窓生で本当によかったと思った。
- ・ サレジオ、ドン・ボスコのおかげで人生が充実していることに多くの同窓生が感謝している。

【若者が主役となって、若者のために】

- ・ 若いというだけで打ち解ける速度が速いことが感じられた。うまくバトンを渡しながらかシステンツァをしていく仕組み作りが必要である。
- ・ 開催国である東ティモールは、各国の会議参加者を受け入れるにあたり、学校の生徒や先生たちを巻き込んでいた。若いエネルギーを強く感じた。
- ・ 今回の会議の中心となって動いていた同窓会世界連合の青年部（GEX）担当アンヘル氏が、2015 年夏にイタリアで行われた SYM（サレジオ青年運動）世界大会の運営中心メンバーだったことを知り、驚いた。GEX の活動は SYM に含まれると考えられる。
- ・ 若者の積極性、特に東ティモールの若い女性が積極的に発言をしているように感じた。

【日本で今後盛り上げていくために】

- ・ 小さなニュースでも共有することで、そこから着想を得たり協力し合える環境が整っていくのではないだろうか。
- ・ 同窓生の会合で、体験・成功例などを共有し、絆を深め、助け合っていこうということは素晴らしいと感じた。
- ・ 2015 年に発足した SYM JAPAN（サレジオ青年運動）の活動には、サレジオの同窓生も多く参加している。日本で GEX（同窓会青年部）を立ち上げ活動するには、サレジオ会青少年司牧部門との連携が不可欠だと感じた。
- ・ 日本でも同窓会青年部の立ち上げと活性化、在校中からの交流が必要と考える。
- ・ サレジオの世界的広がりを在校生・保護者・同窓生に積極的に伝える。同窓会連合のウェブサイトやパンフレットを制作し、在校中・卒業時に同窓会を PR、帰属意識を高める。

【その他】

- ・ 英語に疎い身として会議内容把握に時差が発生、会議の中に入れないのを痛感。次回は少なくとも英語力ある方の参加を。
- ・ 講演にてプロジェクター使用の物はそれをコピーし、後で内容確認できたがスピークのみの講演は英語とテトゥン語が入り交じり理解不能。会議での資料配布は必要不可欠と思われた。
- ・ ほんの一部しか見ていないので断定できないが、東ティモールは南国の温暖な気候により豊かな自然と農作物が耕作しやすいにも関わらず、若者の働くところがないように感じる。教育の大切さを感じる。

【5】次回 2020 年アジア大会 in 日本

- ・ 次回 2020 年アジア大会は、日本が開催地となるよう、世界連合アジア地域担当副会長グブタ氏から強い要請があった。他国はすでに複数回開催しているが、連合が組織された国の中で日本のみが開催しておらず、多くの国が日本での開催を望んでいるとの理由。条件として、実質的会合は 2 日間、参加人数は 60 人程度とシンプルにし、コストを下げるため学校施設等を活用してよい。必要なコストは参加費として徴収し、日本連合が負担する必要はない。
- ・ 2016 年 10 月 15 日の同窓会日本連合役員会で検討し、日本開催を受諾することを決定した。
- ・ すみやかに大会組織委員会、ワーキングチームを始動させ、今回 2016 アジア大会参加メンバーと各同窓会から推挙する若手同窓生が中心となり準備を進めることとなった。

【6】参考資料 ※下記①～⑭は下記リンク（Google ドライブ）からダウンロード可能。

<https://drive.google.com/drive/folders/0B-iMO0i8ECIQaUZqRHFDRnRHUkk>

- ①大会プログラム
- ②世界連合 6 か年戦略計画 2015-2021（Strategic Plan 2015-2021）
- ③世界連合 7 つの優先課題
- ④世界連合折りたたみリーフレット
- ⑤日本連合のプレゼンテーション
- ⑥日本連合の報告（Report National Federation -Japan Federation）
- ⑦日本連合 吉田会長の挨拶
- ⑧インドネシア連合のプレゼンテーション
- ⑨フィリピン連合のプレゼンテーション
- ⑩大会決議書（Resolution of the 11th Asia Oceania Congress of Don Bosco Alumni）
- ⑪大会開催案内等の事前資料
- ⑫東ティモール勉強会（辻村氏、2015 年 12 月 4 日）
- ⑬ディリ地図
- ⑭テトウン語パンフレット

●写真・動画（ダウンロード・転載可）

- ・ フェルナンデス総長から大会参加者へのビデオメッセージ（2016 年 10 月 4 日）
<https://youtu.be/uUFwzQcVhvk>（YouTube）
- ・ サレジオ同窓会連合アジア大会 2016@東ティモール報告（東ティモール制作）
<https://youtu.be/4pCOKLfv4jc>（YouTube）
- ・ 161004-08_サレジオ同窓会連合アジア大会@東ティモール（立石撮影）
<https://goo.gl/photos/BWn6GV6wEW8L7an18>
- ・ 161004-08_サレジオ同窓会連合アジア大会@東ティモール（武井撮影）
<https://goo.gl/photos/PnQECh3s7syu6evy9>
- ・ 161004-08_サレジオ同窓会連合アジア大会@東ティモール（河村撮影）
<https://goo.gl/photos/hEHjcpoUqBdLcfmT8>
- ・ 161004-08_サレジオ同窓会連合アジア大会@東ティモール（西野撮影）
<https://goo.gl/photos/G7rUX8FYPhexoutH8>

●ニュース記事 Boscolink（サレジオ会東アジア・オセアニア地域ニュースサイト）より

○大会報告記事（1～3）

- ・ EAO Congress of Past Pupils open in Dili (I)
http://www.bosco.link/index.php?mid=webzine&page=3&document_url=16885
- ・ EAO Regional Congress of Past Pupils (part II)

http://www.bosco.link/index.php?mid=webzine&page=3&document_srl=16959

- Commitment of Don Bosco Past Pupils 2016-2018 (part III)

http://www.bosco.link/index.php?mid=webzine&page=3&document_srl=16978

○日本連合役員会での報告記事

- Welcome to Japan 2020

http://www.bosco.link/index.php?mid=webzine&page=2&document_srl=17176